

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
700101	人間環境学共同演習	1～2	2×2	奥田・田畑・吉田 他
期間	曜日	時限	備考：2 ヶ年連続履修	
通年	水	3		

授業のキーワード：

人間環境学の構築、プレゼンテーション、全体的展望

授業のテーマ：

19世紀後半より学問間の分断が進み、全体的展望が失われるようになった。本研究科では、人間と環境との相関という全体的現象を参照点とすることで、自らの専門領域の位置づけを図るとともに、逆に個別的研究を深めることからこの全体的現象を照射するという、循環的な学の構築を目指している。

3名の担当者以外にも、本研究科に属する研究指導教員は積極的にこの演習に参加し、議論に加わっていくことにする。

【2 ヶ年連続して履修し計4 単位を修得すること】

授業の概要：

毎回、あらかじめ決められた発表者の専門とするテーマについて発表を行う。そのプレゼンテーションは、専門家相手ではなく、他の研究指導分野の院生にも理解できるように配慮することが求められる。

授業の計画：

修士課程1年次生は、卒業論文を中心としたそれまでの各人の学習成果について、それをいかにして大学院における研究につなげていくのかを発表し、他の出席者との質疑応答によってその適切さを再確認する。

修士課程2年次生の場合、修士論文のための研究の進展具合が中心となるが、その問題意識、研究方法の適切さ、予想される成果などについて、他の出席者の質問に答え、あるいはコメントを受けての検討を行う。

授業方法：

各受講生の研究テーマを中心とした発表と、それにもとづく質疑応答を行う演習形式。

達成目標：

この演習では、授業テーマに掲げた学問的態度を養い、人間と環境との相関という視点のもとに、全体的知の融合をはかり、人間環境学の構築をめざす。

評価方法：

演習への貢献と出席状況を加味して評価する。

教科書：

なし

参考文献：

各発表者が指定。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
730101	科学技術と経済社会環境演習	1～2	2×2	奥田 栄
期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修	
通年	木	4		

授業のキーワード：

問題発見、深化、実証的な視野、発表

授業のテーマ：

科学技術と経済社会のあいだに生じるさまざまななかかわりについて理解する。しかし、科学技術と経済社会環境が重層的で多様な仕方でかかわっていることを理解するのは簡単なことではない。十分な理解には、歴史的な実態を実証的に追及することが必要となる。

授業の概要：

科学技術と経済社会のあいだに生じるさまざまななかかわりのなかから、各々が独自のテーマを選び、それに関連するテキストを批判的にまとめて発表し、議論する。

授業の計画：

1. 関心領域の特定
2. テキストの選択
3. ～ 14. 選んだテキストの輪読とそれに基づくまとめと発表、議論
15. まとめ

授業方法：

テキストの講読とそれに基づく議論を中心に、質疑応答を行う演習形式。

達成目標：

科学技術と経済社会のあいだに生じるさまざまななかかわりのなかから、各々が特定のテーマを選び、それを深く掘り下げていけるようになること。

評価方法：

発表内容（60%）、授業への貢献度（40%）

教科書：

特に指定しない。各人がそれぞれの関心に基づいてテキストを選択する。

参考文献：

その都度プリントを配布したり参考文献を指示したりする。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
730201	地域経済演習	1～2	2×2	藪谷あや子
期間	曜日	時限	備考 ：2ヵ年連続履修	
通年	月	5		

授業のキーワード：

環境規制の国際比較・世界標準化、重層的な環境ガバナンス、環境政策の経済理論、リスク・コミュニケーション、

授業のテーマ：

持続可能な経済発展や自然資源の問題を経済学はどうとらえるのか。環境政策や環境法制や環境経済・ビジネスだけで地球温暖化や廃棄物問題は解決できるのかを考える。

授業の概要：

テキストの輪読、基礎理論の復習と解説。意見交換。環境問題の理論を学ぶことを通して、経済学がその基礎に哲学、倫理学、政治学等の成果を取り込んでいることを解説し、環境経済・政策・法制が共同してこそ。環境問題の解決が進むことを示したい。

授業の計画：

- | | | |
|----|-------------|-------------------|
| 前期 | 1. | オリエンテーション |
| | 2. 3. 4. | マクロ経済史 |
| | 5. 6. 7. | 信頼 |
| | 8. 9. 10. | 共同体 |
| | 11. 12. 13. | 市場 |
| | 14. 15. | 制度としての科学と技術 |
| 後期 | 1. | 前期のレビュー |
| | 2. 3. 4. | 家計と企業 |
| | 5. 6. 7. | 持続可能な経済発展 |
| | 8. 9. 10. | 社会的福祉と民主主義的な政府 |
| | 11. 12. | テキストのまとめ |
| | 13. 14. | 補足：環境リスク論と日本の環境規制 |
| | 15. | 全体のまとめ |

授業方法：

テキストの輪読（受講者がレジюме、報告、コメント、司会をする）を軸にして進めるが、テキスト以外にも参考文献を指示するので、多面的なコメントや書評を求める。

達成目標：

- ① 専門書を精読、意見交流するなかで研究者としての主体性、自立性を養う。
- ② 抽象的な理論を現実的に課題や現象にひきつけて理解できるよう心がける。
- ③ 論文の作成の技法、プレゼンテーション能力の訓練をする。

評価方法：

総合評価。（評価基準それ自体について受講生と意見交換する。）

教科書：

『経済学』（ダスグプタ、岩波書房、2008年）1700円

参考文献：

適宜、紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
730401	財務会計演習	1～2	2×2	磯貝 明
期間	曜日	時限	備考：2カ年連続履修	
通年	火	3		

授業のキーワード：

財務会計 会計制度 IFRS

授業のテーマ：

日本企業の事業の国際化および証券市場のグローバル化にともない、企業のディスクロージャーはグローバルスタンダードに拠ることを求められてきている。この流れは、わが国の会計制度に歴史的な転換を迫るものとなり、会計ビッグバンと呼ばれる会計制度の大きな変革が進められてきた。最近では、会社法の制定や国際的な会計基準への統一化（コンバージェンス）など、会計をとりまく環境の変化によって、わが国の会計制度は大きく変貌してきている。

本演習はこうした会計制度の変革についてその内容を深く考察しようとするものである。

授業の概要：

前期にはこれまでの会計制度の変革をとりあげ、後期には最近の動向を中心としてとりあげる。

授業の計画：

前期

1. 企業会計制度と会計ビッグバン
2. 連結財務諸表制度(1)
3. 連結財務諸表制度(2)
4. 税効果会計(1)
5. 税効果会計(2)
6. 退職給付会計(1)
7. 退職給付会計(2)
8. 時価主義(1)
9. 時価主義(2)
10. 減損会計(1)
11. 減損会計(2)
12. キャッシュフロー計算書(1)
13. キャッシュフロー計算書(2)
14. 企業結合会計(1)
15. 企業結合会計(2)

後期

1. 日本の会計制度の動向
2. 企業会計原則と概念フレームワーク
3. 会社法の概要
4. 会社法会計(1)
5. 会社法会計(2)
6. 会社法に基づく開示制度
7. 金融商品取引法の概要
8. 金融商品取引法会計(1)
9. 金融商品取引法会計(2)
10. 金融商品取引法に基づく開示制度
11. 会計制度の国際的動向(1)
12. 会計制度の国際的動向(2)
13. 会計制度の新たな展開(1)
14. 会計制度の新たな展開(2)
15. 総括・意見交換

授業方法：

各回のテーマについて、受講生の発表の後、補足説明を行い、実態や今後の課題についてのディスカッションを行う。

達成目標：

わが国の会計制度の変遷過程を理解し、様々な会計手続きについての論点を把握することによって、わが国の会計制度の特徴を捉えることができるようになること。

評価方法：

レポート点から欠席回数分を減点する。したがって欠席がなければレポート点100%。なお、受講態度（講義への積極的取り組みなど）についても評価対象とする。

教科書：

下記テキストを予定しているが、受講生の興味・関心および修得知識に対応して変更することも可能であるため、開講時に受講生と相談の上、決定する。

山地範明 『基本的テキストシリーズ 会計制度 新訂版』 同文館出版 ¥2,100

参考文献：

各回のテーマに応じて、随時紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740101	科学技術と経済社会環境特論	1・2	4	奥田 栄

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	2	

授業のキーワード：

環境理解、呪術的世界観、合理的世界観

授業のテーマ：

環境の変化は人間の生活をさまざまに規定してきた。その中で人間は環境を理解し、できるだけ生き易くしようと努力し、ついには環境を思い通りにできるようになっていった。その結果、地球環境が危機に瀕することになったわけであるが、そうした人間の活動を振り返り、今後の文明のあり方を考える。

授業の概要：

前期は、産業社会以前の文明による環境理解について講義する。この中には、日本の伝統的な環境理解も含まれる。後期は、合理的世界観の登場とその日本への導入についてみた上で、その世界観の弊害について考える。

授業の計画：

前期

1. ガイダンス
2. 人類はどのようにして発生したと考えられているか
3. 狩猟採集文化と環境
4. 農業の発生
5. ギルガメッシュ叙事詩
6. 環境破壊による文明の衰亡
7. 呪術的世界観とはどのようなものか
8. 神と仏
9. 平安時代と怨霊
10. 中世の終焉と環境
11. 資本主義の登場と環境
12. 共有地の悲劇とは
13. 共有地の悲劇という幻想
14. 『はげ山の研究』にみる共有地の悲劇という幻想
15. まとめ

後期

1. ガイダンス
2. アリストテレスの合理主義
3. 中世の合理主義
4. デカルトの懐疑
5. ベーコンのビジョン
6. ニュートンと物理学の誕生
7. 宇宙の大きさと年齢
8. 創造説と進化論
9. 日本への合理主義の導入
10. 合理主義と迷信
11. 原子爆弾の誕生
12. 戦争と合理主義
13. 科学絶対主義から相対主義へ
14. 科学と疑似科学
15. まとめ

授業方法：

講義形式による。毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

達成目標：

現在日本の公教育で教えられる公式の世界観である合理的世界観を正しく理解すると同時に、その世界観のもたらした弊害についても理解できるようになる。

評価方法：

授業への貢献度（30％）に前期試験（30％）、後期試験（40％）の結果を加味して判定する

教科書：

とくに指定せず、その都度参考文献を指示する

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740201	地域経済特論	1・2	4	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	1	

授業のキーワード：

環境経済・環境政策・環境法制的政策統合（ポリシー・ミックス）、環境保全と公共政策、サステイナブルシティ・サステイナブルコミュニティ、逆都市化時代のまちづくり（シュリンキング・ニッポン）

授業のテーマ：

先進国では、都市における資源・エネルギーの浪費と、地方都市の全般的な衰退傾向が、環境問題と職場・雇用の確保の面から社会の持続可能性を脅かしている。都市と都市的なライフスタイルを環境と福祉にやさしいものにつくりかえ、さらに環境保全や環境ビジネスによって経済を活性化していくことが求められている。こうした観点から、都市問題を、環境経済、地域経済、環境政策、産業政策、環境法制、都市法制的政策統合によって解決する展望を探る。

授業の概要：

- ①「開発と保全」、「規制と誘導」、「市場と共同体」、「PPP（パブリック・プライベート・パートナーシップ）」など、都市をめぐる経済、政策、法制学の基本的な概念と理論を紹介する。
- ②図式的、通説的などらえ方ではなく、様々な立場にはそれぞれの主張があることを知る。
- ③「理論と現実」にはギャップがあること、どちらかを絶対視するのではなくギャップに至るプロセスを観察することを重視する。

授業の計画：

<前期>

1. 都市が注目される訳① 世界人口の7割が都市に住む時代
～(1)新興国での激的な都市化現象 (2)現代人のライフスタイルの普遍化としての都市生活
2. 都市が注目される訳② エコロジー
急速に悪化する都市環境問題～生態系、メタボリズム（物質代謝・物質循環・環境容量）、都市災害（都市水害、ヒートアイランド）、アメニティ、地球環境問題との関係
3. 都市が注目される訳③ エコノミー
日本企業の復活の救世主になるか？都市環境ビジネス～太陽光発電、水道インフラ、スマートシティ（エコオフィス・エコ住宅、スマートグリッド）、LRT・新幹線、電気自動車、
4. 5. 6. 7. 8. 交通需要マネジメントとまちづくり～四条河原町の自動車規制を素材として
・道路建設から交通需要マネジメントへ～供給促進から需要管理・制御（TDM）へ
・TDM手法とコンパクトシティ～コンパクトシティの意義と限界（「陸の孤島」化する郊外、都市内「限界集落」、都市内格差の拡大（棲み分け、インナーシティ問題）
・都市と自動車～電気自動車、自動車の社会的費用論、自動車産業論、カーシェアリング
・都市と公共交通～環境にやさしい公共交通がなぜに縮小・撤退しなければならないか？
・都市と自転車～ソフトエネルギー・パスという考え方
9. 10. 11. 12. 13. 都市の廃棄物処理～行政にとって、ビジネスにとって
・家庭ごみ～リサイクルの現状と処理場問題、NIMBY症候群
・産業廃棄物～不法投棄と処理場問題、廃棄物処理法、産廃Gメン
・公害問題～足尾銅山、豊島
・リサイクルの事業採算性～「リサイクル貧乏」、民間委託、都市鉱山、廃棄物の国際移動
・費用負担の理論と実際
・リサイクル政策の国際比較
14. 15. 都市環境の包括的マネジメント
・環境マネジメントとコミュニティマネジメント
・コモンズとしての都市～所有から利用へ（占有から共有へ）、分かち合いによる絆づくりへ

<後期>

1. まちづくりが注目される訳① 都市の形成史と構造（例えば、欧・米・アジアの都市）
2. まちづくりが注目される訳② EUの都市再生戦略
3. まちづくりが注目される訳③ アメリカの都市の成長管理政策
4. まちづくりが注目される訳④ 逆都市化時代の建築・住まい方
5. 6. 7. 景観政策の理論と実際
～京都市の景観条例（都市と景観）と真鶴市の美の条例（都市美）を素材として
・「よい景観、悪い景観」～「都市の美」は誰が決める？その基準は？
・法律と条例～役割、齟齬、意義と限界、
・都市政策とまちづくりの違い
・修復（保全）型開発という考え方、公共財としての景観という考え方
・都市景観問題の本質
8. 9. 10. 都市計画的規制の理論と実際
～中心市街地活性化問題（シャッター通りとまちづくり三法）を素材として
・都市の賑わい・活力はどこから来るのか？～地域経済との関連
・人口移動、都市型ライフスタイル、人口構成、世帯構成、家族の変化
・大型店・コンビニ・商店街の共存は可能か？法律で調整できるのか？
・消費者としての市民とまちづくりの担い手としての市民のはざま
11. 応用問題：環境問題なのか、小売店舗規制問題なのか？
～京都市コンビニ深夜規制を素材として
12. 13. 環境権が挑む都市計画法制度
～岡崎市の建築競争の事例から
・都市計画・建築基準法・地区協定における環境の扱い
・都市計画の考え方（ハウードの「明日の都市」、ジェイコブズの4つの原則とシティネス）
14. 15. 都市問題と環境問題から考える経済・政策・法制分野の政策統合

授業方法：

毎回、新聞記事を編集したプリントを配布する。テーマに即しつつ、日本経済の現状に関連した産業関係のDVD（ビデオ）を活用するので、上手に就職活動にも役立ててほしい。

達成目標：

わが街に関心をむけ、まちに関する諸事象を見て、「見えないものを見る」感覚を養う。断片的な現象をつないで都市の全体像を創造する訓練をする。政策や法制度が依拠する理論を理解し、まちづくりに参加できる科学的なりテラシーを養う。

評価方法：試験（レポートを含む）60%、積極的・主体的な授業参加態度40%

教科書：未定

参考文献：「都市環境論」（花木啓祐、学芸出版社、2006年）2600円（税別）。その他、授業のなかで紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740401	環境経済学特論	1・2	4	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	2	

授業のキーワード：

科学の統合 人間と環境とのつながり 経済学史（経済思想の歴史） 所得水準と幸福 経済体制と環境

授業のテーマ：

経済学を他の学問領域と統合することを目指した環境経済学者K.W.カップや「公害」（kogai）という言葉の世界で最初に用いた経済学者都留重人の環境経済思想について取り上げる。

授業の概要：

前期では、教科書的な環境経済学とカップのそれとを比較しながら、環境問題の原因のとりえ方とその解決法について考えていく。後期では、日本の環境経済学に多大な影響を与えた経済学者都留重人の業績を振り返り、その現代と将来における意義と残された課題について論じる。

授業の計画：

（前期）

- (1) A.C.ピグーの経済学
- (2) K.W.カップの経歴と初期の思想
- (3) 『社会に生きる人間の科学へ向けて』①
- (4) 『社会に生きる人間の科学へ向けて』②
- (5) 『社会に生きる人間の科学へ向けて』③
- (6) 『私的企業の社会的費用』①
- (7) 『私的企業の社会的費用』②
- (8) 『私的企業の社会的費用』③
- (9) カップの教育思想
- (10) アダム＝スミス『国富論』①
- (11) アダム＝スミス『国富論』②
- (12) アダム＝スミス『道徳感情論』
- (13) J.S.ミル『自由論』
- (14) J.S.ミル『経済学原理』
- (15) まとめ

（後期）

- (1) イントロダクション
- (2) 都留重人の経歴と基本思想
- (3) 『所得と福祉』①
- (4) 『所得と福祉』②
- (5) 『公害の政治経済学』①
- (6) 『公害の政治経済学』②
- (7) 『公害の政治経済学』③
- (8) 『公害の政治経済学』④
- (9) マルクスの思想
- (10) 『資本論』①
- (11) 『資本論』②
- (12) ケインズの思想
- (13) ケインズ『一般理論』①
- (14) ケインズ『一般理論』②
- (15) まとめ

授業方法：

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。

達成目標：

科学の統合の重要性について理解する。現代経済のしくみとそれが引き起こす環境問題について理解する。経済学史の重要性を理解する。

評価方法：

期末試験80%、小テスト20%。
 環境経済学の有効性と限界をよく理解している…S
 環境経済学について知っている…A
 環境経済学について知っているがあまり説明力がない…B
 ところどころ間違っ理解している…C
 上記のレベルに達していない…D

教科書：特に指定しない。

参考文献：K.W.カップ『私的企業と社会的費用』岩波書店。

都留重人『都留重人著作集 全13巻』講談社。

尾高煌之助・西沢保編『回想の都留重人—資本主義、社会主義、そして環境』勁草書房。
 その他適宜授業中に紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
740501	資源循環型経済社会特論	1・2	4	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	3	

授業のキーワード：

物質・エネルギー代謝、外部費用、経済的厚生分析

授業のテーマ：

文明とは人間と自然との間の物質・エネルギー代謝の様態であるという視点から持続可能な循環型文明のあり方を展望するとともに、20世紀の物質文明を支えてきた大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済原則を明らかにし、資源循環型社会を実現するための新たな経済原則を展望する。

授業の概要：

前期は環境経済学を基礎に、環境と人口、環境と経済システム、文明と物質・エネルギー代謝の様態を歴史的に考察する。後期は20世紀の物質文明を支えてきた大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済社会システムの仕組みと経済原則を概説するとともに、資源循環型社会を実現するための経済システムのあり方とそれを支える新たな経済原則について、現実に形成されつつある循環市場の動向を踏まえながら明らかにする。

授業の計画：

<前期>

1. ガイダンス
2. 環境経済学の対象としての環境(1)
3. 環境経済学の対象としての環境(2)
4. 環境と人口圧力(1)
5. 環境と人口圧力(2)
6. 環境と人口圧力(3)
7. 環境と経済システム(1)
8. 環境と経済システム(2)
9. 環境と経済システム(3)
10. 人間圏の物質・エネルギー代謝(1)
11. 人間圏の物質・エネルギー代謝(2)
12. 文明と物質・エネルギー代謝(1)
13. 文明と物質・エネルギー代謝(2)
14. 日本の物質・エネルギー代謝
15. まとめ

<後期>

1. ガイダンス
2. 市場メカニズムと廃棄物の価格(1)
3. 市場メカニズムと廃棄物の価格(2)
4. 市場メカニズムと外部不経済(1)
5. 市場メカニズムと外部不経済(2)
6. 外部費用の発生要因(1)
7. 外部費用の発生要因(2)
8. 循環型経済構築の政策的着眼点(1)
9. 循環型経済構築の政策的着眼点(2)
10. 循環型経済を構築するための政策体系
11. 環境税の経済分析(1)
12. 環境税の経済分析(2)
13. デポジット制度の経済分析
14. 拡大生産者責任の経済分析
15. まとめ

授業方法：

基本的に講義形式で進めるが、必要に応じてビデオやプリント等の資料を用いて解説する。

達成目標：

人間と環境との係わりを立体的、構造的、歴史的にとらえる方法論と、環境経済学の外部費用論、経済厚生分析の手法を習得する。

評価方法：

授業の取り組み30%、テスト70%として評価する。

教科書：指定なし

参考文献：

- 植田和弘『環境経済学』（岩波書店）
 吉野敏行『資源循環型社会の経済理論』（東海大学出版会）
 松井孝典ほか『社会地球科学』（岩波書店）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760701	財務会計特論	1・2	4	磯貝 明
期間	曜日	時限	備考：	
通年	水	1		

授業のキーワード：

財務会計 IFRS コンバージェンス

授業のテーマ：

近年、国際会計基準審議会（IASB）のもと、国際的な会計基準の統合が世界規模で推し進められている。日本でも、IASBによって設定された国際財務報告基準（IFRS）に対応するため、大規模かつ頻繁に会計基準の制定や改訂が推し進められ、現在もコンバージェンスが続けられている。IFRSへの対応は、日本企業のグローバル競争力に直接的に結びついており、今後の動向が注目されるため、本科目ではこれをとりあげ考察していく。

授業の概要：

国際会計基準について総合的、体系的に論述し、その変遷とIFRSへの各国の対応をとりあげ、わが国の会計基準コンバージェンスの必要性と課題について論及する。また、具体的にIFRSの導入がわが国の会計実務に与える影響について考察する。

授業の計画：

前期

1. オリエンテーション
2. 国際会計基準の概要、意義と特徴
3. 国際財務報告基準（IFRS）
4. 会計基準コンバージェンスの国際的動向
5. 日本における会計基準コンバージェンス
6. 有形固定資産会計
7. 投資不動産会計
8. 売却目的固定資産会計
9. 無形資産会計
10. 棚卸資産会計
11. 金融商品会計
12. 引当金会計
13. 偶発債権・債務会計
14. ストック・オプション等会計
15. 損益会計論（収益会計）

後期

1. 国庫補助金等収入・工事契約の会計
2. 従業員給付会計
3. 借入費用の会計
4. リース会計
5. 減損会計
6. 税効果会計
7. 外貨換算会計
8. 企業結合会計
9. 連結会計
10. ジョイント・ベンチャー会計
11. セグメント情報の開示基準
12. 年次財務諸表の作成
13. 中間・四半期財務諸表の作成
14. 会計方針・会計上の見積りの変更・誤謬
15. 財務諸表に関する補足情報

授業方法：

テキストにしたがい、各項目の内容を詳細に解説し、その内容について必要に応じて受講生の意見を求め、討議を行う。

達成目標：

国際財務報告基準（IFRS）を理解し、日本におけるコンバージェンスの際の論点を把握し、IFRSがわが国会計実務へ与える影響を考察できるようになることを目標とする。

評価方法：

レポート点から欠席回数分を減点する。したがって欠席がなければレポート点100%。なお、受講態度（講義への積極的取り組みなど）についても評価対象とする。

教科書： 菊谷正人編著 『IFRS・IAS徹底解説』 税務経理協会、¥3,150

参考文献： 各回のテーマに応じて、随時紹介していく。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750401	環境リスク管理基礎実習	1	2	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	2	

授業のキーワード：

環境リスク、リモートセンシング、GIS、リスクコミュニケーション

授業のテーマ：

人間活動と自然環境の間で双方向に及ぼされる環境リスク問題について、その概念と分析・評価手法の基礎的事項を実習を通じ理解する。実習ではフィールドワークを主とする局地的事象の調査・分析から、衛星画像などのリモートセンシングデータや地理情報システム（GIS）を用いた広域的な分析までを取り扱う。さらに行政・企業・民間にわたるリスクコミュニケーションの促進に向けた、情報整備・伝達手法の理解を目的とする。

授業の概要：

リモートセンシングデータを用いた画像解析とGISの活用に焦点をあて、実習を進めていく。植生情報をおもに扱うが、必要があれば各々の研究テーマ等へのこれらの利活用についても考え、授業に取り入れていく。

授業の計画：

(前半)

1. グラウンドトゥールズ
2. 衛星リモートセンシングによる植生解析
3. 衛星リモートセンシングによる地形解析、裸地・崩壊地抽出
4. 衛星リモートセンシングによる災害情報の抽出

(後半)

1. GISによる景観情報の分析
2. GISによる生物多様性の評価
3. GISのリスク管理への適用
4. GISの情報公開・アカウントビリティへの適用

授業方法：

ソフトウェアの操作を主とする実習形式をとり、適宜課題を与える。また事例分析のための文献購読を交える。

達成目標：

環境リスク問題についての定量的アプローチの基本概念を理解し、専門的課題に対処できる衛星画像解析技術やGIS活用技術の基本を身につける。

評価方法：レポート（50%）と授業への取り組み（50%）で評価する。

教科書：特に指定しない。教材は適宜配布する。

参考文献：

- 佐土原聡・川崎昭如・吉田聡・古屋貴司『図解!ArcGIS—身近な事例で学ぼう』、古今書院、2,730円
 川崎昭如・吉田聡『図解ArcGIS〈Part2〉GIS実践に向けてのステップアップ』、古今書院、2,730円
 長澤良太・原慶太郎・金子正美、『自然環境解析のためのリモートセンシング・GISハンドブック』、古今書院、4,725円
 モニカ G.ターナー・ロバート V.オニール・ロバート H. ガードナー、『景観生態学—生態学からの新しい景観理論とその応用』、文一総合出版、3,990円
 加藤正人、『改訂 森林リモートセンシング』、日本林業調査会、2,500円
 Carol A. Johnston、『GISの応用—地域系・生物系環境科学へのアプローチ—』、森北出版、3,990円
 Almo Farina、『Principles And Methods in Landscape Ecology: Towards a Science of the Landscape』、Kluwer Academic Pub.、10,096円

実験・実習・教材費：

30,000円（衛星画像データ購入費、消耗品費として使用）。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
750501	環境分析化学演習及び実験	1～2	2×2	長井正博
期間	曜日	時限	備考： 2ヵ年連続履修 2時限連続	
通年	月	3・4		

授業のキーワード：

文献講読 野外調査 データ処理

授業のテーマ：

自分の研究テーマに必要なデータを集め、データに基づいて考え、考えを他人に伝える力を修得する。

授業の概要：

卒業研究の進捗状況、機器の使用状況、野外観測の実施などについて、報告してもらい、議論を行う。

授業の計画：

次の事項について本授業のみでなく、日常的に議論して、卒業研究の完成を目指す。

- ・研究テーマの決定
- ・研究計画の立案
- ・実験手法の検討
- ・データの処理と検討
- ・機器の管理
- ・研究報告

授業方法：

毎週、研究の進捗状況、野外観測の計画、分析機器の使用状況などを研究グループと個人毎に報告してもらう。報告内容に応じて、議論やアドバイスをを行う。

研究テーマに関する文献を読み、その内容の紹介も行ってもらおう。

卒業研究の中間報告を数回行ってもらおう。

達成目標：

一つのテーマに沿って、文献調査、野外観測、データ処理、報告書の作成ができる。

評価方法：

出席と発表内容、さらに機器管理への貢献度などで評価する。

教科書：

特になし

参考文献：

特になし

実験・実習・教材費：

30,000円（実験試薬及び消耗品）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760401	環境倫理特論	1・2	4	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	3	

授業のキーワード：

自然観、人間観、文化的多様性

授業のテーマ：

環境と人間の行為の関係構造を解明し、新しい倫理と人間像を構想するためには、自然とそのうちに生を営む人間存在の理解が要求される。本科目においては、人間と自然とを存在論的に究明した歴史上の哲学・思想における諸主張を吟味し、人間的生と自然との根本からの理解を得ることを目的とする。

授業の概要：

今日の我々の自然観、人間観の由来となっている西洋思想の歴史を、発端となった古代ギリシアの諸哲学からたどる。そして、近代哲学において確立された自然観、人間観を諸思想に吟味し、その問題点を考察する。また西洋思想以外の可能性を東洋の諸思想に検証し、今日あるべき自然観、人間観を考察する。そのなかで、特にニーチェによる西洋思想批判の意義について検証する。

授業の計画：

前期	後期
1 環境問題と自然観・人間観のかかわり	1 古代ギリシアにおける自然理解と人間理解
2 現代文明と古代ギリシアの自然観のかかわり	2 近代思想における自然理解と人間理解
3 タレス 万物の根源アルケー	3 現代における自然および人間理解の問題
4 ヘラクレイトス 万物は流転する	4 ニーチェ 永遠回帰 生成する世界
5 パルメニデス 有るものは有る	5 ニーチェ 身体を含んだ生の全体
6 デモクリトス アトム	6 非ヨーロッパの自然観・人間観
7 プラトンにおける自然および人間 アイデア	7 仏教における自然 道元『正法眼蔵』
8 プラトンの思想の影響	8 仏教における人間観 鈴木正三『驢鞍橋』
9 近代思想と環境問題	死にならう生
10 デカルト 「われ思うゆえにわれあり」と人間理解	9 アイヌ文化における自然観・人間観
11 デカルト 『方法序説』心身二元論における自然理解	10 アイヌ文化における自然観・人間観
12 ニュートン力学 および カント哲学	11 環境問題に直面して動揺する自然理解・人間理解
13 ヨーロッパにおける自然観と人間観の現代への影響	12 現代文明における自然観・人間観の限界
14 環境問題とヨーロッパ思想	13 環境問題の克服と自然観・人間観の克服
15 まとめ	14 環境倫理学と現代の哲学
	15 まとめ

授業方法：

授業は各時代の哲学者・思想家の自然・人間理解に関わる文献の解釈を中心に進められる。

達成目標：現代に至る西洋および非西洋の自然観・人間観について理解する。

評価方法：後期試験を中心に、出席率、レポートなどを考慮して評価する。

- S 西洋および非西洋の自然観・人間観の本質を理解。
- A 西洋および非西洋の自然観・人間観を理解。
- B 西洋および非西洋の自然観・人間観をほぼ理解。
- C 西洋および非西洋の自然観・人間観のいくつかを理解。
- D 西洋および非西洋の自然観・人間観を理解していない。

教科書：授業中に適宜、解釈する文献のプリントを配布する。

参考文献：授業中に指示する。

実験・実習・教材費：ナシ

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
760901	環境分析化学特論	1・2	4	長井正博
期間	曜日	時限	備考：	
通年	金	2		

授業のキーワード：

物質循環 地球環境 生物地球化学的プロセス

授業のテーマ：

地球環境は気圏、水圏、岩石圏、生物圏から構成されている。これら各圏内および圏間での物質の分布と動態について論じる。特に、ケイ素、リン、窒素などの栄養元素やアルミニウム、鉄などの金属元素をとりあげ、これらの物質の森林流域、河川、湖沼、海洋での挙動とそれを支配する地球生物化学的要因について紹介する。

授業の概要：

地球環境での元素の分布と挙動を紹介する。

授業の計画：

1. 気圏、水圏、岩石圏、生物圏の元素組成
2. 森林流域での元素の分布と挙動
3. 河川での元素の分布と挙動
4. 湖沼での元素の分布と挙動
5. 海洋での元素の分布と挙動

授業方法：

講義を主体に行う。

達成目標：

地球上での物質循環を生物化学的プロセスと関連付けて理解する。

評価方法：

出席と試験により評価する。

教科書：

関連する研究分野の論文を適宜紹介する。

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

特になし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770101	臨床心理査定演習	1	4	高橋・坪井・三後
期間	曜日	時限	備考：	
通年	金	5		

授業のキーワード：

心理査定 投映法 心理検査

授業のテーマ：

臨床心理士として必要不可欠な臨床心理査定の実際を学びます。特に、病院や精神科クリニック等の病院心理臨床現場において通用する心理査定の技法とその実施方法を習得します。

授業の概要：

臨床場面で実際に臨床心理査定が実施できるよう、教育・訓練を行います。

授業の計画：

<前期>

- 1 オリエンテーション
- 2～3 投映法について（ロールシャッハ法テスト体験を含む）
- 4～14 ロールシャッハ法を中心とした投映法の実際（実施方法・分析・解釈等）
- 15 まとめ

<後期>

- 1～5 知能検査（実施方法・分析・解釈等）
- 6～10 発達検査（実施方法・分析・解釈等）
- 11～14 その他の心理検査（実施方法・分析・解釈等）
- 15 まとめ

授業方法：

講義および演習・実習（テスト体験・テスト体験含む）形式で行います。臨床心理査定を本当に自分のものとして習得できるか否かは、各自の主体性にかかっていますので、積極的な学習意欲に期待します。

達成目標：

臨床心理士の基本的姿勢と倫理について学ぶとともに、総合的、臨床的な見立てと対処方法など、臨床現場で役立つ具体的な臨床心理査定の習得を目指します。

評価方法：

授業への取り組み（50%）およびレポート（50%）によって総合的に評価します。

教科書：

ロールシャッハ法テキストは大学院でまとめて購入します。詳細は授業の中で説明します。

参考文献：

池田豊應編「臨床投映法入門」ナカニシヤ出版（税込2800円）
その他、必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770301	臨床心理基礎実習	1	2	高橋・坪井
期間	曜日	時限	備考：3時間連続	
通年	金	3・4		

授業のキーワード：

臨床心理士 心理療法 心理面接 遊戯療法 箱庭療法

授業のテーマ：

心理面接を行うために必要な基本的態度や倫理について学び、面接の技法を体験的に理解します。また、遊戯療法や箱庭療法の観察・実習を通して各技法の基本を理解することをねらいとします。

授業の概要：

前半は臨床心理士としての基本について学び、後半はロールプレイ等によりセラピストとしての基本的態度の涵養をはかります。

授業の計画：

<前期>

- ①オリエンテーション、心理臨床に関する倫理について
 - ②心理臨床に関する倫理について
 - ③心理臨床に関する倫理・関連法規について
 - ④心理面接を行う基本的態度・初回面接・事例研究について
 - ⑤ロールプレイ（ビデオ視聴・紙上応答訓練）
 - ⑥～⑨ロールプレイ（実習）
 - *カンファレンス（M2と合同）4～7月第Ⅱ金曜日 計4回
 - *定例授業時間外に実施
- 見学実習（精神科病院・クリニック・私設心理相談室・児童相談所・適応センター等）
遊戯療法観察（人間環境大学附属心理相談室）

<後期>

- ①遊戯療法観察事例の検討
 - ②ビデオ「来談者中心療法」視聴
 - ③～⑥箱庭（事例の提示・実習）
 - ⑦～⑨事例検討（院生担当事例について）
 - *カンファレンス（M2と合同）9～2月第Ⅱ金曜日 計5回（1月除く）
 - *定例授業時間外に実施
- 見学実習（情緒障害児短期治療施設・青少年相談センター等）

授業方法：

基本的事項については講義を行います。演習・実習が基本となります。

達成目標：

臨床心理士としての基本を身につけることを目標とします。

評価方法：

平常点（50%）とレポート（50%）によって総合的に評価します。

教科書：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

参考文献：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

30,000円（実習教育・教材費及び消耗品）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770401	臨床心理実習	2	2	渡辺・田畑・三後
期間	曜日	時限	備考：3時間連続	
通年	金	3・4		

授業のキーワード：

臨床心理実践、臨床心理学的援助、臨床心理学的査定、心理療法、カウンセリング

授業のテーマ：

臨床心理士として現場で働くために必要な、一人一人のクライアント（患者）に即した、臨床心理学的査定（見立て、診断、方針）と臨床心理学的援助方法（カウンセリング・心理療法）とを、実際のケースを通して学び、習得する。

授業の概要：

学生は、本学附属臨床心理相談室及び学外実習施設においてケースを担当すると共に、毎回レポートを作成し、同時に、授業において担当ケースを報告することで、教員による指導、教育、スーパービジョンを受ける。

授業の計画：

大学院教員及び本学附属臨床心理相談室スタッフによる指導、教育、スーパービジョンに基づき、本学附属臨床心理相談室において、実際の事例を学生に担当、実習させ、事例の心理面接・心理査定・カウンセリング（心理療法）について、臨床的な指導、教育を行なう。また、精神病院・精神科クリニック・障害児治療施設など学外実習施設において、本学学外講師の指導、教育、スーパービジョンの下に、事例を担当、実習させて、その臨床的な指導、教育を行なう。

授業方法：

学生は、本学附属臨床心理相談室、及び精神科病院、クリニック、児童施設等でさまざまなクライアント（患者）を実際に担当し、臨床心理学的面接、臨床心理学的査定、臨床心理学的援助（カウンセリング・心理療法）を実習すると共に、学内授業では毎回学生に担当しているクライアント（患者）についての事例報告をさせ、グループスーパービジョンによる臨床的、実践的な指導、教育を行なう。

達成目標：

臨床現場においてクライアントに役立つ臨床心理学徒（臨床心理士）となる。

評価方法：

実習実践態度（50%）、授業への取り組み（30%）、レポート評価（20%）。

教科書：

参考文献：

実験・実習・教材費：

30,000円（病院実習費・謝礼・教材費・消耗品等）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
770201	心理学特別演習	1～2	2×2	渡辺・田畑・高橋・ 坪井・三後
期間	曜日	時限	備考 ：2ヵ年連続履修	
通年	水	4		

授業のキーワード：

臨床心理学、研究方法、修士論文

授業のテーマ：

大学院における講義、及び臨床心理学実習、演習から得た知見を、心理学の先行研究を踏まえながら、文献的、理論的、臨床的な、臨床心理学的研究、考察の訓練を行ない、最終的には修士論文としてまとめることを目的とする。

授業の概要：

学生が自身の研究内容を発表、報告し、担当教員全員による指導を受ける。

授業の計画：

1年次前期末には学生の研究テーマを考慮しながら、教員合議の上、研究科委員会に諮って研究指導教員を決定する。学生は、研究指導教員の指導を受けて研究テーマを定め、深化させ、修士論文へと集約させる。本演習においては、研究指導教員以外の教員や他学生との共同討議を積極的に進め、自己の研究の広がりや深まりを図り、学生が研究の多様な可能性に対して開眼し成長するように指導する。

授業方法：

学生は、大学院におけるさまざまな講義、及び「臨床心理基礎実習」「臨床心理実習」「臨床心理査定演習」、そしてケース担当による臨床心理実践などから得た知見を、心理学、臨床心理学の多様な理論と照合させながら、担当教員の指導、教育を受けると共に、他の教員が全員出席する集団討議の場で研究を発表し、自身の研究テーマを探り、修士論文としてまとめていく。

達成目標：

臨床心理学徒としての研究論文の作成。

評価方法：

研究発表とその内容など授業への取り組み。

教科書：

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780101	臨床心理学特論	1	4	渡辺雄三
期間	曜日	時限	備考：	
通年	火	3		

授業のキーワード：

臨床心理学、臨床心理士、心理療法、クライアント

授業のテーマ：

「いかにクライアントを理解し、手助けするか」を基本テーマとして、臨床心理士として必要不可欠な臨床心理学の理論と方法を学ぶ。精神病院や精神科クリニック等の病院心理臨床を始めとして、さまざまな臨床現場において通用する、心理面接・心理療法・心理査定の理論と技法とを学習する。また臨床心理士の基本的な臨床姿勢と倫理についても学ぶ。

授業の概要：

「臨床心理学の方法」すなわち、臨床心理士はいかにクライアントを理解し、クライアントの手助けをするかについて、1) 臨床心理学という学問の方法、2) 臨床心理学による見立ての方法、3) 臨床心理学による手助けの方法（心理療法）、の構成によって授業を進める。

授業の計画：

担当教員の執筆による教科書『私説・臨床心理学の方法』に沿って、また適宜担当教員の著書や研究論文を紹介しながら、臨床上、実践的な臨床心理学の理論と技法を学ぶ。

授業は次の計画によって進められる。

前期	後期
1回～2回 第1章「臨床心理学の原則」	1回～3回 第8章「手助けの方針を決め、クライアントに伝え、合意する」
3回～5回 第2章「臨床心理学がクライアントを理解する視点と方法」	4回～5回 第9章「クライアントにかかわる」
6回～7回 第3章「臨床心理学の見方、考え方」	6回～7回 第10章「クライアントにかかわりながら考え続ける」
8回～9回 第4章「クライアントに会う」	8回～10回 第11章「クライアントの自己理解と自己修復を助ける」
10回～11回 第5章「クライアントを理解する」	11回～13回 第12章「心理療法における「こころ・からだ」の作業」
12回～13回 第6章「クライアントを査定する」	14回～15回 第13章「クライアントと共に歩き続ける」
14回～15回 第7章「病態水準論」	

授業方法：

上記の授業計画に沿って、講義し、臨床心理士として必要な基本的な臨床心理学の理論、技法、臨床姿勢、倫理等について学び、自由に相互討論する。

達成目標：

臨床現場においてクライアントに役立つ臨床心理学徒（臨床心理士）となる。

評価方法：

授業への取り組み（70%）とレポートによる評価（30%）。

教科書：

渡辺雄三『私説・臨床心理学の方法』（金剛出版）（5,800円予価）

参考文献：

- 渡辺雄三『病院における心理療法』（金剛出版）
- 渡辺雄三『夢分析による心理療法』（金剛出版）
- 渡辺雄三『夢が語るこころの深み』（岩波書店）

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780201	臨床心理面接特論	1	4	田畑洋子

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	2	

授業のキーワード：

心理療法、人格変容、事例研究

授業のテーマ：

臨床心理面接を行うにあたっての基本的態度への理解を深め、心理療法を通しての人格変容の実際に触れることにより、心理臨床実践への動機づけを高めることを目的とする。また、心理療法の各種理論とそれに基づく実践について学び、それぞれの特徴について理解していく。

授業の概要：

心理療法に関する各種理論の基本的概念について学び、担当教員の事例や専門誌掲載の公表事例を検討することにより、理論が実践にどのように生かされるかについて理解を深める。

授業の計画：

- 前期 ①オリエンテーション、臨床心理面接を行う基本的態度・倫理について
 ②来談者中心療法～基本的概念と事例の検討
 ③精神分析的な心理療法～基本的概念と事例の検討
 ④ユング派心理療法～基本的概念と事例の検討
 ⑤遊戯療法～基本的概念と事例の検討
 ⑥行動療法～基本的概念と事例の検討 * 各項目2～3時間を充当
- 後期 ①認知行動療法～基本的概念と事例の検討
 ②家族療法～基本的概念と事例の検討
 ③日本の心理療法について
 ④箱庭療法～基本的概念と事例の検討
 ⑤親面接～基本的考え方と事例の検討
 ⑥学校での心理面接～基本的考え方と事例の検討 * 各項目2～3時間を充当

授業方法：

各項目について報告者がレジュメを作成、発表し、全員で討議する。
 来談者中心療法・遊戯療法・箱庭療法・親面接については担当者が講義を行う。

達成目標：

各種心理療法についての特徴を学び、それらに通底する臨床心理面接を行うにあたっての基本的態度について理解する。

評価方法：

授業の取り組み 50%、レポート 50%

教科書：

使用しない。その都度文献を紹介する。

参考文献：

授業中に随時紹介する。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780301	臨床心理査定特論	1・2	2	高橋 昇

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	5	

授業のキーワード：

心理査定、見立て、人格理解、病態水準

授業のテーマ：

臨床心理査定についての基礎から臨床実践的な使用方法に至るまでの習得を目標とします。査定は心理療法と切り離すことのできない技法であり、その理解と実践力は臨床的な力ともなります。基礎的な施行法や分析法と共に、病態水準の診断、人格や知性の判断、感情や対人関係の在り方などの解釈をめぐって検討を行っていきます。

授業の概要：

査定や見立ての基礎的な理論を習得することから始めて、質問紙法や投映法の理論的な背景を考え、臨床実践的な技法を理解することに繋げていくことになります。

授業の計画：

1. オリエンテーション
- 2～3. 査定と見立て
- 4～6. 心理検査の理論と概要
7. 人格検査について
8. 人格検査施行(1)
9. 人格検査分析と解釈
10. 事例検討(1)
11. 人格検査施行(2)、分析と解釈
- 12～13. テストバッテリーについて
14. 事例検討(2)
15. まとめ

授業方法：

まずいくつかの基礎的な論文を購読する。そして徐々に実践的な心理アセスメントを体験しながら、各技法の特徴や解釈法を身につけるための学習を行います。それと併行して臨床実践の中でどのように使用されるのかを概説し、議論していきます。

評価方法：

平常点（出席状況および受講態度）50%とレポート（50%）によって総合的に評価します。積極的に発言することが求められ、特に遅刻・欠席は厳しい評価になります。

教科書：

特にありません。

参考文献：

授業中に紹介します。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780401	心理療法特論	1・2	2	佐野直哉

期間	曜日	時限	備考：
後期	集中	E	

授業のキーワード：

無意識 転移と逆転移 行動化 生き残ること 物語

授業のテーマ：

今回は精神分析的心理療法について論ずる。精神分析療法の基本はFREUD・S（1856-1939）が10数編の技法論文に述べている。これらの論文は約100年前に書かれたものであるが今読んでも決して古くはない、いや現代の精神医療を考えるに当たって貴重な提言を含んでいる。始めにこれらの技法論文を概観する。

授業の概要：

心理療法は治療者とクライアントの二人三脚による旅に例えられる。その例えに従い旅の始まりつまりで出会い、初回面接から旅の終わり終結までを自験例を提示しながらたどってみたい。その過程で両者の間に展開する様々な力動つまり転移、逆転移、退行、行動化、抵抗、中断の機制についても触れる。更にクライアント理解に必要と思われる精神発達論、人格構造論などについてもふれる。

この講義に出席する学生諸君は受身的に講義を聴くだけでなく積極的に質問をして討論に加わることを求める。

授業の計画：

集中講義の3日間を主に次の事柄について学生諸君と学びたい。

- | | |
|-----------------------------------|---|
| 1. 精神分析療法の特徴 | 9. 精神分析的な心理療法における内在化理論について |
| 2. 精神分析療法における治療者-クライアントの心理的力動について | 10. 「期待された治療者」について |
| 3. 精神分析療法における出会いと別れをめぐって | 11. 聴くこと、読み取ること、関わること。 |
| 4. 精神分析療法の中絶と終結の力動について | 12. クライアントの非言語的行動への感情移入と『ことば』で伝えることの意味。 |
| 5. 逆転移としての治療者の献身性あるいは愛他性をめぐって | 13. 再演するクライアントと『期待された対象としての治療者』 |
| 6. 私達、心理臨床家は何故、他者を癒やそうとするのだろうか？ | 14. 退行・転移・行動化の相互関連性について。 |
| 7. 転移の様態の変遷 | 15. 物語構築をめぐって。クライアント固有の歴史を共有するさぎょう。 |
| 8. 治療者はどこに居るのか？ | |

等について1. 講義 2. video 共覧 3. 映画の分析 4. 集団討論等によって学ぶ。

授業方法：

基本的には講義形式で行いますが、ビデオ、映画 プリントなどの資料を用いていきます。

達成目標：各自が講義を聞きながら自らの内面を内省できるようになることを重視します。

評価方法：

レポートによる採点を重視しますが、それよりも授業中における積極的な発言や討論姿勢を重視します。

教科書：特に定めません。随時必要な文献を紹介します。

参考文献：特に定めません。

実験・実習・教材費：なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781701	投映法特論	2	2	森田美弥子
期間	曜日	時限	備考：	
前期	集中	B		

授業のキーワード：

ロールシャッハ法、投映法による人間理解、心理臨床査定

授業のテーマ：

ロールシャッハ法を用いて、投映法による人間理解について学ぶ。

投映法は、臨床心理査定「技法」であると同時に、半構造化面接のような特徴ももっている。検査実施場面でのすべての行動は分析・解釈に役立つものである。被検査者がそこで何を体験しているか考えながら、査定の作業を進めていく必要がある。

授業の概要：

ロールシャッハ法の分析・解釈について、従来の解釈仮説など理論的背景を概観し、実例の検討を行う。名古屋大学式ロールシャッハ法を中心に扱うが、ロールシャッハ法の実施からスコアリングまでの基礎は、どの技法でもよいので身につけていることを前提とする。

授業の計画：

第1日目：量的分析

- ・各スコアの解釈仮説。スコアリングの留意点。
- ・数量指標の意味。カテゴリーごとの特徴把握。
- ・名大式ロールシャッハ法について。
- ・「感情カテゴリー」と「思考・言語カテゴリー」

第2日目：質的分析

- ・継列分析のポイント。
- ・カード特性。
- ・事例検討①
- ・実施方法および記録の仕方。

第3日目：実践的活用

- ・総合的解釈。水準の見立て。パーソナリティの記述。
- ・事例検討②
- ・フィードバックの仕方。
- ・まとめ。

授業方法：

主として前半は配布資料にもとづく講義を中心に進めるが、受講生自身が考え全体で討議する時間をとる。後半に事例検討を行う。受講生が実施したロールシャッハ法を発表し、全員で検討する。（あらかじめ発表者を決めて準備をしておいてください）

達成目標：

単なる知識や技術の習得ではなく、ロールシャッハ法などの臨床心理査定技法の背景にある意味を理解することを目指す。

評価方法：

授業への関与度（出席および発言など）…60%、レポート…40%

教科書：使用しない。

参考文献：

名古屋ロールシャッハ研究会：編『ロールシャッハ法解説－名古屋大学式技法－』 2000円
 森田ほか2010『実践ロールシャッハ法－思考・言語カテゴリーの臨床的適用』ナカニシヤ出版
 2520円

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780501	グループ・アプローチ特論	1・2	2	伊藤義美

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	C	

授業のキーワード：

グループ・アプローチ、パーソンセンタード・エンカウンター・グループ、グループ・プロセス、グループ・アウトカム（効果）

授業のテーマ：

小グループやグループ状況を活用する心理臨床のグループ・アプローチは、心理治療、心理的成長、教育・研修、訓練に用いられる。グループ・アプローチの種類と特徴、グループのプロセスとアウトカム（効果）、ファシリテーション、研究方法と研究成果などを学ぶ。

授業の概要：

パーソンセンタード・エンカウンターグループ（PCEG）などのエンカウンター・グループと集団心理療法についてその特徴や意義、方法、グループ・プロセス、グループ効果、様々なグループ実践の展開と諸問題を明らかにする。

授業の計画：

1. グループ・アプローチの定義と種類を明らかにする。
2. グループ・アプローチの歴史と現状を概説する。
3. グループ・アプローチの立場と理論(1)を解説する。
4. グループ・アプローチの立場と理論(2)を解説する。
5. グループ・アプローチの実際(1)について紹介・解説する。
6. グループ・アプローチの実際(2)について紹介・解説する。
7. グループ・アプローチの実践事例(1)の理解を深める。
8. グループ・アプローチの実践事例(2)の理解を深める。
9. グループ・アプローチの体験学習(1)を行う。
10. グループ・アプローチの体験学習(2)を行う。
11. グループ・アプローチの研究(1)について紹介・解説する。
12. グループ・アプローチの研究(2)について紹介・解説する。
13. グループ・アプローチの教育・訓練について紹介・解説する。
14. グループ・アプローチの課題と・倫理について解説する。
15. グループ・アプローチの発展と可能性について考える。

授業方法：

基本的には講義形式で進めるが、必要に応じて配布資料、ビデオ視聴、グループ事例の検討、グループ体験学習、全体討論などを行ってグループ・アプローチの理解を深める。

達成目標：

グループ・アプローチに関して基本的な理論と実際についての理解を深める。

評価方法：

平常点…50%、レポート…50%

教科書：

伊藤義美編著、『パーソンセンタード・エンカウンターグループ』、ナカニシヤ出版、2,940円

参考文献：

伊藤義美編著、『ヒューマニスティック・グループ・アプローチ』、ナカニシヤ出版、2,310円

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
780901	学習心理学特論	1・2	2	芳賀康朗

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	1	

授業のキーワード：

学習心理学、乳幼児期、認知発達

授業のテーマ：

成育後のヒトが示す行動の大半は経験を通じて学習されるものである。そのため、学習過程の研究は人間行動の理解にとって不可欠である。この授業では、発達や適応において重要な役割を果たしている学習行動に関する理論を学ぶとともに、行動や認知過程における変化の速度が著しいと乳幼児の発達過程に焦点をあて、知覚学習や記憶構造の変化、言語習得の特徴について考える。

授業の概要：

学習心理学の基礎事項を確認しながら、乳幼児期の認知発達過程の特徴を示す実験研究の結果を英文テキストを読み進めながら解説していく。

授業の計画：

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| 1) ガイダンス | 9) テキスト講読 (Memory Development) |
| 2) 学習心理学の基礎理論 1 | 10) テキスト講読 (Memory Development) |
| 3) 学習心理学の基礎理論 2 | 11) テキスト講読 (Memory Development) |
| 4) 学習心理学の基礎理論 3 | 12) テキスト講読 (Language Acquisition) |
| 5) テキスト講読 (Perceptual Development) | 13) テキスト講読 (Language Acquisition) |
| 6) テキスト講読 (Perceptual Development) | 14) テキスト講読 (Language Acquisition) |
| 7) テキスト講読 (Perceptual Development) | 15) まとめ |
| 8) テキスト講読 (Perceptual Development) | |

授業方法：

英文テキストの和訳を中心として進める。受講者各自の和訳担当箇所を予め指定し、その内容の発表をもとにして全員で討議する。和訳担当箇所以外も毎回予習してくることを求める。

達成目標：

学習心理学の基礎知識を習得することに加え、乳幼児期の認知発達の特徴について各自の臨床経験と有機的に結びつけて理解できるようになることを目指す。

評価方法：

発表内容 (40%)、討議への参加度 (20%)、定期試験 (40%) を総合的に評価する。

教科書：

Bransford, J. D., Brown, A. L., & Cocking, R. R. (Eds.) 2000 *How People Learn*. National Academy Press.

Eysenck, M. W. 2004 *Psychology : An International Perspective*. Psychology Press Ltd.

参考文献：

永江著 『脳と発達の心理学』 ブレーン出版 3,990円

杉村・坂田共編 『実験で学ぶ発達心理学』 ナカニシヤ出版 2,600円

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781001	比較行動学特論	1・2	2	芳賀康朗

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	1	

授業のキーワード：

比較行動学、比較心理学、系統発生、適応

授業のテーマ：

動物の自然生活場面におけるさまざま行動をとりあげ、それが適応にいかに関与しているか、その行動がどのように進化してきたか、といった問題について検討し、行動発現の機序を理解していく。さらに、ヒトと他の動物との行動を比較することによって、ヒトの独自性についても考えていきたい。

授業の概要：

行動学の初歩的文献を講読しながら、比較行動学と比較心理学の基礎知識を確認し、ヒトとそれ以外の動物種（特に哺乳類動物）の比較という観点から、ヒトという種の行動の独自性を理解する。

授業の計画：

- | | |
|------------------------------------|---------------------------------|
| 1) ガイダンス | 9) テキスト講読 (Mating Behavior) |
| 2) 行動の生物学的理解 | 10) テキスト講読 (Courtship Displays) |
| 3) 比較行動学の基礎知識 1 | 11) テキスト講読 (Defensive Behavior) |
| 4) 比較心理学の基礎知識 2 | 12) テキスト講読 (Parental Care) |
| 5) テキスト講読 (Innate Behavior) | 13) テキスト講読 (Tool Using) |
| 6) テキスト講読 (The Nature of Learning) | 14) テキスト講読 (Human Cognition) |
| 7) テキスト講読 (Spatial Behavior) | 15) まとめ |
| 8) テキスト講読 (Foraging Behavior) | |

授業方法：

英文テキストの和訳を中心として、適宜映像資料も利用しながら進める。受講者各自の和訳担当箇所を予め指定し、その内容の発表をもとにして全員で討議する。和訳担当箇所以外も毎回予習してくることを求める。

達成目標：

比較行動学の基礎知識を習得することに加え、心理学的な観点（個体発生）のみでなく、生物学的・行動学的観点（系統発生）からヒトや動物の行動を理解できるようになることを目指す。

評価方法：

発表内容（40%）、討議への参加度（20%）、定期試験（40%）を総合的に評価する。

教科書：

Gould, J. L. & Gould, C. G. 1999 *The Animal Mind*. W. H. Freeman and Company.
Morris, D. 1990 *Animal Watching*. Random House.

参考文献：

授業中に指示する。

実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781101	産業・組織心理学特論	1・2	2	高木浩人

期間	曜日	時限	備考：
後期	集中	F	

授業のキーワード：

社会的パワー、リーダーシップ、モチベーション、職務満足、キャリア

授業のテーマ：

産業・組織心理学の重要テーマである社会的パワー、リーダーシップ、服従行動、少数者の影響、組織の人間モデル、モチベーション、職務満足、キャリアについて理解を深める。

授業の概要：

産業・組織心理学の重要概念について知るとともに、自らの生活に引き寄せて理解することで、この学問領域のもつ意味について考える。

授業の計画：

- 第1回 産業・組織心理学の概要
- 第2回 社会的パワーとは何か：測定、種類
- 第3回 社会的パワーの測定結果の考察
- 第4回 社会的パワーの諸相：パワー拡大のストラテジー、影響の与え方、パワーを志向する性格
- 第5回 リーダーシップとは何か
- 第6回 リーダーシップ研究の展開
- 第7回 組織における服従行動
- 第8回 組織における少数者
- 第9回 組織における人間モデル
- 第10回 モチベーションの欲求説
- 第11回 モチベーションの過程説
- 第12回 職務満足
- 第13回 キャリア・アンカー
- 第14回 働き方の多様化
- 第15回 まとめ

授業方法：

基本的には講義形式で進めるが、測定尺度への回答、回答結果についての考察などを通して理解を深める。

達成目標：

産業・組織心理学の領域で、これまでにどのようなことが研究されてきており、現代社会においてどのような意味をもっているのかについて理解すること。

評価方法：

平常点とテストにより評価する。評価のウエイトは、授業の取組50%、テスト50%。

教科書：用いない

参考文献：

- 斎藤勇編 対人社会心理学重要研究集1 誠信書房 ¥2,625
- 外島裕・田中堅一郎編 増補改訂版産業・組織心理学エッセンシャルズ ナカニシヤ出版 ¥2,940
- シェイン著 (松井訳) 組織心理学 岩波書店 ¥3,045

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781201	人間関係特論	1・2	2	吉田俊和

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	D	

授業のキーワード：

援助行動の類型 援助行動の発達 ボランティア活動 援助の促進要因 援助の抑制要因

授業のテーマ：

人を助ける＝援助行動の基本的問題を社会心理学的な立場から考える。なぜ人は、自己犠牲を払ってまで他者を助けようとするのか？という問題を理解する。また、そのような行動を生起させる心の発達について考える。

授業の概要：

援助行動の定義や研究領域について概観し、援助要請や援助授与の生起過程、援助行動の発達理論、援助行動の抑制要因などについて、理解を深める。

授業の計画：

大きく5つの章から構成される。

1. 援助行動研究とは
2. 援助行動の類型と意思決定過程モデル
3. 援助行動の形成と発達
4. 援助行動を決める状況要因
5. 現実生活における援助問題
－対処行動としての援助－

授業方法：

授業は、各章ともレポーターがレポートを作成し、発表する。各章ともコメンテーターの役割を担う人は、議論の口火を切って、質問してください。他の受講者は、その議論に参加し、自分の考えを述べてください。受講者は、レポーターとコメンテーターを各1回は義務づけられます。受講者が少ない場合は、複数の章を担当していただきます。逆に多い場合は、ページ数の多い章を複数で担当してください。

達成目標：

ボランティア活動、愛他的行動、向社会的行動といった、他者を思いやる心の発達や行動のしくみについて理解することを目標とする。

評価方法：

レポーターおよびコメンテーターとしての役割と議論への参加度によります。

教科書：

人を助ける心：援助行動の社会心理学 高木 修 著（セクション社会心理学7）サイエンス社 ¥1,400円（改訂の可能性あります）

＊＊ 事前にテキストを購入し、レポーターとコメンテーターを受講者の間で相談して決めておき、授業時には、レポートを配布して行ってください。参考文献は、テキスト中に豊富に記載されていますので、必要に応じて利用してください。

参考文献：

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781501	障害者心理学特論	1・2	2	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	4	

授業のキーワード：

知的障害 発達障害 特別支援教育

授業のテーマ：

近年、法律の改正により対応が急務とされている障害児者について、社会的な状況をふまえた上で、それぞれの障害の特徴を理解することを目的とします。事例を通して検討を行い、適応上の問題と障害児者の家族への支援のあり方についても学びます。

授業の概要：

様々な障害の特徴と心理的援助について具体的に学びます。

授業の計画：

1. オリエンテーション
2. 障害児者の歴史
3. 発達障害者支援法
4. 特別支援教育
5. 知的障害
6. 身体障害
7. 広汎性発達障害
8. 学習障害
9. AD/HD
- 10～14. 事例検討
15. まとめ

授業方法：

講義および演習形式で行います。各自が担当する部分について調べたことをもとに、レジメを作成し、順番に発表し検討していきます。視聴覚教材を用いる場合もあります。

達成目標：

それぞれの障害の特徴と心理的特性、発達上の諸問題を理解することを目的とします。

評価方法：

課題への取り組み（50%）および発表内容とレポート（50%）によって総合的に評価します。

教科書：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

参考文献：

必要に応じ、授業の中で適宜、紹介します。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
781601	心理統計法特論	1・2	2	小塩真司

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	B	

授業のキーワード：

データ解析、論文読解、質問紙法、多変量解析

授業のテーマ：

心理学の研究を計画・遂行する上で、一連の統計的な手続きを理解することはきわめて重要である。この授業では、心理学で必要とされる一連の統計技法を理解することを目的とする。

授業の概要：

授業の前半では、実際に雑誌に掲載されている論文を読みながら、そのなかで使用されている統計手法を解説する。授業の後半はコンピュータを用いてSPSSおよびAmosによる統計処理の作業を体験する。

授業の計画：

1. イントロダクション
2. 統計処理で陥りがちな問題点1
3. 統計処理で陥りがちな問題点2
4. 統計処理で陥りがちな問題点3
5. 統計処理で陥りがちな問題点4
6. 個別の分析手法1
7. 個別の分析手法2
8. 個別の分析手法3
9. 分析手法を組み合わせる結果を導く1
10. 分析手法を組み合わせる結果を導く2
11. 分析手法を組み合わせる結果を導く3
12. 分析手法を組み合わせる結果を導く4
13. 分析手法を組み合わせる結果を導く5
14. 最終課題1
15. 最終課題2

授業方法：

講義、実習、レポート作成、プレゼンテーションを組み合わせる授業を行う。
 なお、受講者の理解度に合わせて授業内容を変更することがある。

達成目標：

実際の研究で陥りがちな問題点に触れながら、分析に対するクリティカルな思考ができる技術を身につける。

評価方法：

授業への参加態度50%、レポート50%で評価する。

教科書：

小塩真司『研究事例で学ぶ SPSSとAmosによる心理・調査データ解析』（東京図書）

参考文献：

各自の理解度に応じて参照すること。SPSSの操作方法と基本的な分析方法は1. を、より研究に近い応用的な分析方法を学ぶためには2. を参照すること。

1. 小塩真司『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析—因子分析・共分散構造分析まで—』（東京図書）
2. 小塩真司『実践形式で学ぶ SPSSとAmosによる心理・調査データ解析』（東京図書）

実験・実習・教材費：なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
790101	比較日本文化論演習	1～2	2×2	吉田喜久子
期間	曜日	時限	備考：2カ年連続履修	
通年	火	2		

授業のキーワード：

日本思想、比較思想的方法、思想の読解

授業のテーマ：

主に日本の思想を（必要に応じて外国語で書かれた思想も）原書で読むことを通して、日本文化を生み出して来た日本人のものの考え方や思想の特質を、比較思想的手法も駆使しつつ、熟考する。履修者自身が、自分の関心を研究にまで仕上げる手助けをする。

授業の概要：

上質な日本思想論をテキストとし、熟読含味する作業を行なう。単に知識として知るだけでなく、担当教員の詳しい説明を手掛かりにして、履修者が自分自身で考える力を養う。履修者による研究発表と、それについての討議と指導。

授業の計画：

前期

- ①日本思想論のテキストの解説。卒業論文に関する指導
 - ②日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(1)
 - ③日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(2)
 - ④日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(3)
 - ⑤日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(4)
 - ⑥日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(5)
 - ⑦日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(6)
 - ⑧修了生による研究発表
 - ⑨日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(7)
 - ⑩日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(8)
 - ⑪日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(9)
 - ⑫日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(10)
 - ⑬日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(11)
 - ⑭日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議(12)
 - ⑮修了生による研究発表
- 履修者に対する研究指導

後期

- ①日本思想論のテキストの読解、解説、討議(13)
 - ②日本思想論のテキストの読解、解説、討議(14)
 - ③日本思想論のテキストの読解、解説、討議(15)
 - ④日本思想論のテキストの読解、解説、討議(16)
 - ⑤日本思想論のテキストの読解、解説、討議(17)
 - ⑥日本思想論のテキストの読解、解説、討議(18)
 - ⑦日本思想論のテキストの読解、解説、討議(19)
 - ⑧修了生による研究の最終発表
 - ⑨日本思想論のテキストの読解、解説、討議(20)
 - ⑩日本思想論のテキストの読解、解説、討議(21)
 - ⑪日本思想論のテキストの読解、解説、討議(22)
 - ⑫日本思想論のテキストの読解、解説、討議(23)
 - ⑬履修者による研究発表
 - ⑭履修者による研究発表
 - ⑮日本思想論のテキストの読解、解説、討議(24)
- とまとめ

授業方法：

予告された箇所のテキストについて、前以て不明の箇所を調べ熟読した上で、授業に出席することを、履修者に義務づける。担当教員からの履修者に対する問いと、履修者からの応答の後、担当教員が詳しい解説を行なう。また、履修者に対する研究指導も、随時行なう。

達成目標：

熟読含味理解という作業をおろそかにしないために、進度は遅々としているが、深く考えられた思想が表現された文章をできるかぎり理解するように努める。日本の文化や思想、歴史等に対する履修者の関心を、研究といえる水準にまで高める能力を養う。

評価方法：

下準備した上での出席、発表。討議への積極的な参加。これらを総合的に評価する。
これらの諸点のいずれかにおいて、
特に卓抜であると認められた場合…S
優れていると認められた場合…A
やや欠けるところはあるが、ある程度の努力はしたと認められた場合…B
やや欠けるところもあり、努力する姿勢がもっと必要な場合…C
Cに達しない場合…D

教科書：

予めこちらで把握できる履修者に関しては、年度初めまでに事前に通知する。新たな参加者に対しては、初回に知らせる。

参考文献：授業時に適宜紹介する。

実習・実験・教材費：不要。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
790301	日本近世教育文化論演習	1～2	2×2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	木	2	

授業のキーワード：

古文書、日本漢文、くずし字

授業のテーマ：

歴史学研究の基本である日本漢文、古文書解読の基礎的知識を修得し、初歩的な古文書などを読むようにする。

授業の概要：

基礎的な史料、古文書を輪番で解読し、日本漢文、古文書解読の基礎的な知識を修得する。また、内容について解説し、グループ討議などを行う。

授業の計画：

- | | | | |
|----|--------|----|--------------|
| 1 | 吉田松陰 | 16 | 『日本外史』① |
| 2 | 西郷隆盛 | 17 | 『日本外史』② |
| 3 | 坂本龍馬 | 18 | 『日本外史』③ |
| 4 | 橋本左内 | 19 | 『日本外史』④ |
| 5 | 石田梅岩 | 20 | 『日本外史』⑤ |
| 6 | 上杉鷹山 | 21 | 古文書 仮名読みの基礎① |
| 7 | 会沢正志斎 | 22 | 古文書 仮名読みの基礎② |
| 8 | 『旧幕府』① | 23 | 古文書 仮名読みの基礎③ |
| 9 | 『旧幕府』② | 24 | 古文書 候文の基礎① |
| 10 | 『旧幕府』③ | 25 | 古文書 候文の基礎② |
| 11 | 『旧幕府』④ | 26 | 古文書 候文の基礎③ |
| 12 | 『旧幕府』⑤ | 27 | 古文書 基礎史料解読① |
| 13 | 『旧幕府』⑥ | 28 | 古文書 基礎史料解読② |
| 14 | 『旧幕府』⑦ | 29 | 古文書 基礎史料解読③ |
| 15 | 『旧幕府』⑧ | 30 | 古文書 基礎史料解読④ |

授業方法：

最初は講義形式を中心とする。学生の進捗状況に応じて、輪読形式とする。

達成目標：

くずし字辞典を使い、史料が読め、解釈できることを目標とする。

評価方法：

授業の取り組み100%などで評価する。

教科書：

なし

参考文献：

井上久雄著、川口雅昭訳編『大教育者のことば』致知出版社。一、六〇〇円。

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
790501	日本語教育演習	1～2	2×2	文野峯子
期間	曜日	時限	備考：2カ年連続履修	
通年	木	2		

授業のキーワード：

卒論、アウトライン、先行研究の要約、研究方法

授業のテーマ：

卒論準備の講座と位置付け、以下の3点を中心に学ぶ。

1. 研究方法についての知識を得る。
2. 論文の書き方を学ぶ。
3. 日本語教育分野の研究について幅広く先行研究論文を読む。

授業の概要：

3年生は、先行研究をできるだけ多く読み、自身の卒論のテーマを決める。学年末には、卒論のアウトラインを作成する。4年生は卒論を仕上げる。

授業の計画：

前半	後半（論文の各部分の書き方、論文検討）
1. 論文検索の方法（図書館のガイダンス）	1. 論文の構成について
2. レジユメの作り方	2. アウトラインで構成・展開の確認
3. 先行研究のまとめ方	3. 序論（「はじめに」）には何を書くか
4. 先行研究の発表とまとめ方の練習(1)	4. 先行研究
5. 先行研究の発表とまとめ方の練習(2)	5. 研究課題・仮説など
6. 研究方法論 (1)質問紙	6. 研究方法(1)
7. データ収集(1)（先行研究を参考に）質問紙の作り方など	7. 研究方法(2)
8. 分析の方法(1)結果集計、解釈	8. 結果、分析等の書き方
9. 分析の方法(2)解釈の妥当性	9. 結果の書き方（グラフの作成）
10. 質的研究（自然談話の分析）	10. 結果の考察
11. データ収集(2)質的な研究のためのデータ	11. 結論、まとめ等
12. 談話研究（先行研究を読む）	12. 参考文献
13. アウトラインを作る練習（先行研究を使って）	13. 表記
14. アウトラインの発表と検討(1)	14. 要旨
15. アウトラインの発表と検討(2)	15. 卒論発表

授業方法：

演習形式で行う。各自テーマに沿った先行研究・論文を読む。毎回1、2名がレジユメを作って発表し、全員で討議する。発表と同時進行で、論文を構成する各部分についての知識や書き方の技術について理解を深める。

達成目標：

論文を構成する各部分についての知識や書き方の技術について理解を深める。3年生は、アウトラインが書ける。4年生は、論文を完成する。

評価方法：授業時の課題・発表 50%
アウトライン・卒論 50%

教科書：授業時に指示する。

参考文献：

『論文ワークブック』くろしお出版
日本語教育ブックレット4「第二言語習得の心理学的研究方法」国立国語研究所編

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
800101	比較日本文化論特論	1・2	4	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	4	

授業のキーワード：

生、経験、詩、神話、宗教、歴史

授業のテーマ：

日本の文化と思想をめぐる諸問題について、特に経験と言葉という視点から、比較文化論的ないし比較思想的考察を行なう。講義は、隔年で継続発展している。

授業の概要：

前期Aの講義における宣長の言語論は、宣長の歴史観や宗教観とつながっている。現代における言語論と宗教論を概観した上で、そのことを明らかにし、宣長の言語論、宗教観、歴史観は、現代の思想的状況の中でどのような意味をもちうるか考える。

講義の内容は、前期Aと後期Bは連続し、Aの内容を受けてBの講義に進むので、通年でAB両方を受講することをすすめる。また、特殊講義は、講義担当者のその時点での研究成果を最も反映するものなので、下記授業計画に一部変更が生じる場合もある。

授業の計画：

- ①現代の言語論概観(1)
- ②現代の言語論概観(2)
- ③宗教と言葉(1)
- ④宗教と言葉(2)
- ⑤宗教と言葉(3)
- ⑥宗教というものをいかに考えるか(1)
- ⑦宗教というものをいかに考えるか(2)
- ⑧宗教というものをいかに考えるか(3)
- ⑨宗教というものをいかに考えるか(4)
- ⑩宣長の言語論と宗教観(1)
- ⑪宣長の言語論と宗教観(2)
- ⑫言葉、歴史、宗教
- ⑬思想の普遍主義と日本的宗教性及び日本文化(1)
- ⑭思想の普遍主義と日本的宗教性及び日本文化(2)
- ⑮まとめ

授業方法：

必要に応じて、参考資料をコピーで配布する。それぞれの思想の言葉に実際に触れることを通して、講義の理解を深めるとともに、その思想の言葉を手掛かりとして、受講者が自分自身で考える姿勢を身につけてほしい。

達成目標：

日本の思想や日本人が考えて来た問題がどういう問題であるのかを知り、それが受講者自身にとって、また現代にとってどういう意味をもつ問題であるか理解する。

評価方法：

- (a)授業への取り組み、(b)学期末試験、(c)レポートを同等の比重で重視する。
- (a)における真摯な態度を前提とした上で、(b)と(c)において、
 講義の理解度が特に優れ、課題についてよく考えられていると認められた場合…S
 講義の理解度に問題がないと認められた場合…A
 理解度にやや不十分さはあっても、少なくとも要点は理解できていると認められた場合…B
 かなりの不十分さはあるにせよ、理解できている問題もいくつかはあると認められた場合…C
 Cに達していない場合…D

教科書：特になし。

参考文献：参考文献は授業中に適宜紹介する。その中の一冊を、レポートの課題図書とすることもある。

実験・実習・教材費：不要。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
800301	日本近世教育文化論特論	1・2	4	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	1	

授業のキーワード：近世、教育（人づくり）、社会

授業のテーマ：

18世紀末からのウエスタン・インパクトと国内支配体制の混乱に対して、我国の武士階級が行った対応は、人材育成という抜本的改革であった。そして、そこで養成された人材は、結果的に「明治日本」発展の中心的役割を果たすこととなった。

そこで、前期講義では、近世、とりわけ、幕末という時代を理解させるため、幕末期の天皇と幕府の関係を中心として、その社会を考える。そして、とりわけ、幕末期において、特異な人づくりを行ったと思われる、長州藩及び薩摩藩における学校教育（主に藩校教育）などを考える。また、後期には、天保期以降の政治・文化的背景を論じつつ、武士教育に焦点を絞り、藩校などの教育の実態及びその基底にあった精神的風土、教育観などを論じる。また、明治維新以降の学校教育についても考察する。

授業の概要：

18世紀終わりから、19世紀初めに在位された光格天皇は、ある意味では、我国の幕末という時代を準備された天皇であった。そこで、まず、天皇と幕府との関係を中心として、幕末という時代を理解させる。そして、その中で諸問題に対し、長州、薩摩藩がどのような人づくりを行ったかを理解させる。また、寺子屋教育に関しては、できるだけ史料を中心として、具体的な教育実践を考察する。また、我国の近世を代表する私塾である、松下村塾及び咸宜園について、その成立の背景などにもふれる。そして、それが近代教育にどのような影響をもったのか否かを考えさせる。

授業の計画：

1. 幕末期の政治と教育 —政治動向①光格天皇の誕生①—
2. 幕末期の政治と教育 —政治動向①光格天皇の誕生②—
3. 幕末期の政治と教育 —政治動向②天明の大飢饉と天皇①—
4. 幕末期の政治と教育 —政治動向②天明の大飢饉と天皇②—
5. 幕末期の政治と教育 —政治動向③光格天皇の君主意識①—
6. 幕末期の政治と教育 —政治動向③光格天皇の君主意識②—
7. 幕末期の政治と教育 —政治動向④対外的危機と朝廷①—
8. 幕末期の政治と教育 —政治動向④対外的危機と朝廷②—
9. 幕末期の政治と教育 —政治動向⑤大政委任論の成立①—
10. 幕末期の政治と教育 —政治動向⑤大政委任論の成立②—
11. 幕末期の政治と教育 —政治動向⑥天皇号の再興①—
12. 幕末期の政治と教育 —政治動向⑥天皇号の再興②—
13. 幕末期の教育現状—長州藩を中心として—
14. 幕末期の教育現状—薩摩藩を中心として—
15. まとめ
16. 幕末期の教育現状—寺子屋の教育①—
17. 幕末期の教育現状—寺子屋の教育②—
18. 幕末期の教育現状—寺子屋の教育③—
19. 幕末期の教育現状—寺子屋の教育④—
20. 幕末期の教育現状—寺子屋の教育⑤—
21. 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾①—
22. 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾②—
23. 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾③—
24. 幕末期の教育現状—私塾の教育①松下村塾④—
25. 幕末期の教育現状—私塾の教育—咸宜園①—
26. 幕末期の教育現状—私塾の教育—咸宜園②—
27. 幕末期の教育現状—私塾の教育—適塾—
28. 「学制」の制定と近代学校制度の整備①
29. 「学制」の制定と近代学校制度の整備②
30. まとめ

授業方法：講義形式を中心として、適時、史料などを講読する。

達成目標：

前期は、幕末という時代を代表する史料を読み取り、また、その時代を理解できる能力を習得する。また、後期には、具体的な史料が読み取れ、また、近世、近代の連続性、非連続性などを理解できる能力を習得する。

評価方法：出席（20%）、試験（80%）などによって、評価する。

教科書：なし。

参考文献：なし。史料は適時配布。

実験・実習・教材費：なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
840601	日本語教育特論	1・2	4	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	3	

授業のキーワード：

前期：外国語教授法、言語習得
後期：日本語能力、評価基準、評価方法、OPI

授業のテーマ：

教授法、日本語能力評価

授業の概要：

前期：グループ毎に、担当する教授法を決め、その教授法を使って授業を行う。
後期：OPI（話す力を面接によって測定するテスト）について理解し、OPIの方法を身につける。

授業の計画：

前期	後期
1. 外国語教授法の理論と歴史	1. 「日本語ができる」とは
2. 外国語学習理論、学習理論の変遷	2. テストの妥当性と信頼性
3. デモ授業実施のためのオリエンテーション	3. 外国語能力評価の枠組みについて学ぶ 1
4. オーディオ・リンガル・メソッド	4. 外国語能力評価の枠組みについて学ぶ 2
5. 直接法	5. OPIの知識、技術を身につける。(1)
6. TPR	6. OPIの知識、技術を身につける。(2)
7. サイレントウエイ	7. OPIの知識、技術を身につける。(3)
8. CLL	8. OPIテストを作成する。(中上級)
9. サジェストペディア	9. OPIテストを作成する。(超級)
10. ナチュラル・アプローチ	10. テスト実施と判定体験(1)超級
11. VT法	11. テストを評価する。修正する。
12. CLT(1)話す、聞く	12. テスト実施と判定体験(2)
13. CLT(2)読む、書く	13. テストを評価する。修正する。
14. 対等性、共生を实践する対話の方法	14. テスト修正（ロールカードを中心に）発表
15. 学習者主体の活動（プロジェクトワーク）	15. まとめ

授業方法：

各授業のテーマや課題について、グループ単位で討議し結果をクラス全体に報告・発表する。学生が積極的に作業に参加し、活動を通じて理解を深める参加型学習。

達成目標：

前期：教授法の理論を踏まえ、学習者のニーズに応えた外国語の教え方が考えられるようになる。
後期：日本語の「話す能力テスト」について学び、能力測定についての技術を身につける。

評価方法：

授業参加	50%
課題・発表	50%

教科書：

『日本語教授法ワークショップ』凡人社

参考文献：

「JF日本語教育スタンダード2010」国際交流基金

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
810201	茶道文化論演習	1～2	2×2	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考：2ヵ年連続履修
通年	火	4	

授業のキーワード：

点前 運び 棚 荘物

授業のテーマ：

「亭主と客の距離、茶室空間を学ぶ」
茶道の実技を通して茶道の本質を学ぶ。

授業の概要：

利休により完成した茶道は、現代まで脈々と受け継がれ、日本の伝統文化の根幹をなすものである。そして点前は茶人の長い経験と工夫とによって、洗練され一定の方式が生まれ、それが無駄のない、美しい型となって現代まで脈々と受け継がれてきた。点前作法の規律正しさ、節度ある人と人との対応の仕方、手の運び、または身体全体の動作などすべて、五常（人の守るべき五つの道徳）にかなっている。点前を通して亭主と客の距離（間）も含めて探求する。

授業の計画：

前期（風炉点前）

1. 運び薄茶点前～道具の位置関係
2. 棚薄茶点前～道具の位置関係
3. 運び濃茶点前～道具の位置関係
4. 棚濃茶点前～道具の位置関係
5. 茶筌荘～道具の位置関係
6. 茶杓荘～道具の位置関係
7. 茶入荘～道具の位置関係
8. 茶碗荘～道具の位置関係
9. 貴人点点前～道具の位置関係
10. 貴人清次点点前～道具の位置関係
11. 長緒茶入点前～道具の位置関係
12. 入子点点前～道具の位置関係
13. 続き薄茶～道具の位置関係
14. 初炭手前～道具の位置関係
15. 後炭手前～道具の位置関係

後期（炉点前）

1. 運び薄茶点前～道具の位置関係
2. 棚薄茶点前～道具の位置関係
3. 運び濃茶点前～道具の位置関係
4. 棚濃茶点前～道具の位置関係
5. 茶筌荘～道具の位置関係
6. 茶杓荘～道具の位置関係
7. 茶入荘～道具の位置関係
8. 茶碗荘～道具の位置関係
9. 貴人点点前～道具の位置関係
10. 貴人清次点点前～道具の位置関係
11. 長緒茶入点前～道具の位置関係
12. 入子点点前～道具の位置関係
13. 続き薄茶～道具の位置関係
14. 初炭手前～道具の位置関係
15. 後炭手前～道具の位置関係

授業方法：

基本的には実習主体で進めますが、必要に応じてビデオやプリントなど資料を用いていきます。

達成目標：

点前の修練を通して茶道の本質を学ぶ

評価方法：

授業態度を重視（70%）茶道力の検定（20%）レポート課題（10%）

教科書：

なし

参考文献：

実技・実習・教材費：

10,000円（抹茶・菓子代、消耗品費）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
820201	茶道文化論特論	1・2	4	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	4	

授業のキーワード：

北山文化 東山文化、南蛮文化 千利休 武家茶の湯

授業のテーマ：

「生活芸術としての茶の湯文化を日本文化史の中で探求する」

授業の概要：

日本独自の伝統文化としての茶道は、平和のシンボルとして現代の日本人の心のよりどころとなるものです。茶の湯文化の成立・変容・発展過程を王朝文化、中世、近世の文化史の中で捉えて考察する。

授業の計画：

茶はもともと中国で飲用され、中国文化として我が国に将来された。唐時代の団茶、宋時代の抹茶、明時代の煎茶と時代により、茶の湯文化は変容するが、特に抹茶は、南北朝から室町時代にかけてわが国の様々な生活芸術の一つとして確立し、千利休によって大成する。また利休以後の茶の湯の変容をその時代背景の中で考察する

- | | |
|------------------|-------------------|
| (1) 花開く王朝文化 | (3) 黄金文化と茶の湯 |
| 1、 貴族の文化 | 1、 2、 南蛮文化と黄金文化 |
| 2、 3、 喫茶の始まり | 3、 4、 茶の湯の黄金時代 |
| 4、 絵画と書 | 5、 6、 新しい焼き物の時代 |
| 5、 6、 土器から陶器へ | 7、 衣服と染織 |
| (2) 茶道・香道・華道と水墨画 | (4) 大名と町衆文化 |
| 7、 8、 室町将軍家と諸文化 | 8、 9、 江戸文化の諸相 |
| 9、 10、 茶の湯の成立 | 10、 11、 武家茶の湯の拡がり |
| 11、 12、 華道・香道・連歌 | 12、 13、 数寄空間の展開 |
| 13、 14、 水墨画の時代 | 14、 琳派と諸工芸 |
| 15、 まとめ | 15、 まとめ |

授業方法：

基本的には講義形式で進めますが、必要に応じてビデオやプリントなど資料を用いていきます。

達成目標：

茶の湯文化の背景を学ぶ

評価方法：

出席を重視
筆記試験とレポート課題

教科書：

よくわかる伝統文化の歴史「花ひらく王朝文化」(淡交社1,680円)
よくわかる伝統文化の歴史「茶道・香道・華道と水墨画」(淡交社1,680円)
よくわかる伝統文化の歴史「黄金文化と茶の湯」(淡交社1,680円)
よくわかる伝統文化の歴史「大名と町衆の文化」(淡交社1,680円)

参考文献：

谷端昭夫著「日本史のなかの茶道」(淡交社2,000円+税)

実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
840101	日本古代・中世史特論	1・2	4	松島周一

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	5	

授業のキーワード：

東アジア世界、律令国家、神国意識、武家政権、天皇、貴族社会

授業のテーマ：

日本社会の形成に大きな影響を与えた対外関係と武士の存在。その影響が特に大きく、またダイナミックであった古代・中世の歴史を学ぶことは、日本史全体を展望する基礎的な力を養うためにも有効である。そうした視角から、日本の前近代史の流れを概観して行く。

授業の概要：

基本的に時代の流れを辿りつつ、各時代の重要と思われる問題を取りあげて講述し、全体として通史的な枠組を修得できるようにしていく。

授業の計画：

おおむね以下のような講義を行う予定。

【前半】

1. 日本の登場
2. 5世紀の日本と東アジア世界
3. 律令国家体制の導入
4. 律令国家導入の国際的背景
5. 律令国家の大概認識
6. 律令国家の変質と対外関係
7. 日本の「鎖国」化
8. 日本的文化の形成
9. 日本語表記の形成
10. 武家政権と東アジア
11. 東アジアの中の蒙古襲来
12. 戦う神々の時代
13. 室町幕府の「外交」
14. 東アジアと銭貨流通
15. 豊臣・徳川の「神国」

【後半】

1. 日本史と武士
2. 武士の登場
3. 貴族と武士
4. 伊勢平氏と貴族社会
5. 平清盛と武家政権への道
6. 平氏政権とは
7. 鎌倉幕府の成立と天皇
8. 武家政権の成立とは
9. 承久の乱
10. 建武の新政
11. 室町幕府と天皇・貴族社会
12. 織田・豊臣政権と天皇
13. 近世武家政権と天皇
14. 中世武士の実像
15. 「武士道」の誤解

授業方法：

必要な史資料をプリントにして毎回配布する。それを参照しながら、講義形式で授業を進める。質問時間は、適宜、なるべく多くとるようにするので、分からないこと、確認したいことは積極的に質問してほしい。

達成目標：

日本の前近代史を「国際的」な広い視野から理解し、説明できる能力を獲得すること。また、武士の存在と活動の実態をとらえ、そこから日本史の展開を理解し、説明できる能力を獲得すること。

評価方法：

前期と後期の最後にそれぞれ試験を行う。その結果を合わせて平均化したものが90%。講義内容をきちんと自分の文章でまとめる論述の試験。講義への理解度、文章表現力が評価の対象。なお、詳しくは授業中に指示するので、必ず確認すること。授業への取り組みが10%。

教科書：特に定めない。

参考文献：授業時に、必要な文献は適宜指示する。

実験・実習・教材費：なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
840201	日本近世社会特論	1・2	4	笠谷和比古

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	C・D	

授業のキーワード：

武士、武家社会、兵農分離、太閤検地、太閤蔵入地、幕府、関白、天皇、征夷大將軍、二重公儀、幕藩体制、大名家、藩、武士道、赤穂事件、タテ社会、自立性、近代化、能力主義、身分制度、市場、商品経済、意思決定

授業のテーマ：

前期：織田・豊臣政権を経て徳川幕府の成立と幕藩体制の構築という近世世界の形成の歴史的意義を考える。特に一般には軽視されがちな、この一連の過程における天皇と朝廷の役割に着目しつつ考究する。

後期：徳川時代は近代化の胎動期であるとともに、今日の日本社会につながる諸々の文化遺産の産出期という意味で重要である。講義では伝統社会の組織特性について考究するとともに、徳川社会における近代的な「知」の成長過程を跡づけていく。

授業の概要：

前期：織田信長政権の特質と本能寺の変の発生理由、豊臣政権の諸政策と同政権の構造的矛盾の表現としての関ヶ原合戦、幕府成立後における徳川・豊臣の二重公儀体制と大坂の陣、そしてそれらの政治的葛藤を克服して形成される徳川幕藩体制の政治的特質、さらにはこの政治体制における天皇と朝廷の存在意義、等々の問題を論じる。

後期：武士道や武家社会の構造分析をとおしていわゆるタテ社会のメカニズムを検討し、リーダーシップ、組織における意思決定の特質、組織と個人との関係性を論じつつ、他方では経済・文化・思想の多様な展開を検討しながら徳川社会における政治的近代化について論じる。

授業の計画：

前期

- 第一回 序論 ― 講義のプラン
- 第二回 織田信長政権と本能寺の変
- 第三回 豊臣政権と天下統一
- 第四回 関ヶ原合戦
- 第五回 徳川幕府の成立
- 第六回 徳川・豊臣二重公儀体制
- 第七回 大坂の陣
- 第八回 幕藩体制の政治構造
- 第九回 近世の朝廷と幕府
- 第十回 東アジアの国際情勢と「鎖国」

後期

- 第一回 大名家（藩）の組織特性
- 第二回 武士道 I
- 第三回 武士道 II
- 第四回 赤穂事件と武士道
- 第五回 元禄時代と全国的市場経済の形成
- 第六回 儒学の革新と近代的「知」の生成
- 第七回 徳川吉宗の享保改革
- 第八回 能力主義的昇進システムの形成
- 第九回 薬種国産化政策と諸国産物取調べ
- 第十回 蘭学の勃興と世界認識の進展

授業方法：講義形式 パワーポイント使用

達成目標：

講義内容をじゅうぶんに理解するとともに、自己の歴史認識能力を深めていく

評価方法：

筆記試験 評価基準については講義の中で説明する

教科書：笠谷 和比古『関ヶ原合戦と大坂の陣』（吉川弘文館、2007）

笠谷 和比古『武士道と日本型能力主義』（新潮社、2005）

参考文献：なし

実験・実習・教材費：なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
840301	日本近・現代史特論	1・2	4	田浦雅徳

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	4	

授業のキーワード：

立憲政治 明治憲法 日清戦争 日露戦争 太平洋戦争

授業のテーマ：

近代における日本の歩みを、その時々日本の生存条件を考えながら見ていこうとするものである。具体的には幕末のペリー来航から立憲政治の確立、日清・日露戦争から太平洋戦争終戦までの政治過程を講義する。もって近代国民国家としての日本が如何にして形成され、激動の近代国際社会の中で苦闘の歴史を築いたかを知る。

授業の概要：

明治憲法の成立から太平洋戦争にいたる歴史をたどっていく。

授業の計画：

〔前期〕	〔後期〕
第1回 立憲政治実現過程の日欧比較	第1回 伊藤博文の憲法調査と宮中改革
第2回 幕閣専断から公議輿論の尊重へ	第2回 大日本帝国憲法の発布
第3回 加藤弘之の「鄰艸」	第3回 第一回帝国議会
第4回 王政復古の政変	第4回 第四議会と和衷協同の詔勅
第5回 五箇条の御誓文	第5回 条約改正と対朝鮮政策
第6回 「公議」の制度化への試み	第6回 壬午・甲申事変
第7回 版籍奉還と廃藩置県	第7回 日清戦争
第8回 岩倉使節団	第8回 三国干渉と日露の対立
第9回 征韓論と明治六年の政変	第9回 日露戦争
第10回 大久保利通と明治政	第10回 日露戦後の内政と外交
第11回 民撰議院設立建白書	第11回 第一次世界大戦とワシントン会議
第12回 自由民権運動	第12回 満洲事変
第13回 士族反乱と西南戦争	第13回 協調と対立の中の昭和十年代
第14回 明治十四年の政変	第14回 「大東亜戦争」の時代
第15回 前期まとめテストと解説	第15回 後期まとめテストと解説

授業方法：

教科書を読みながら、パワーポイントのスライドを使って解説を行う。

達成目標：

授業の内容をしっかりと把握する。

評価方法：

試験（85%）と授業への取り組み（15%）によって評価する。

教科書：

鳥海靖『日本の近代＝国民国家の形成・発展と挫折』放送大学教育振興会、2,100円

参考文献：

なし

実験・実習・教材費：

なし